

かわら版

(この資料は全部お読みいただいても 60 秒です)

厳しい財政運営と日本銀行

<はじめに>

失われた 30 年といわれる一種の過少均衡状態（低成長・デフレ・低賃金）が抜け出せそうな現象が最近は見られるようになってきました。世界的なインフレ傾向に日本も無傷ではいられなくなってきたからです。そこに円安が加わり、いつのまにかコストプッシュ型ですが物価上昇率はプラスに転じています。植田日銀総裁は金融緩和政策解除に非常に慎重のようです。公式には景気の回復の弱さを挙げていますが、それが主な目的か？個人的には懐疑的です。やはり日本の厳しい財政事情から、金利を低く抑えたいのかなと考えてしまいます。国民の生活を犠牲にしてでも、国のメンツを守るのが本心ならば、いずれ国民から見放されてしまうでしょう。

日本国の連結財務諸表が実は作られています。

<日本国政府連結財務諸表推移>

	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 1 年度	令和 2 年度	令和 3 年度
B S (兆円)					
資産総額	1,000.9	1,012.8	1,022.9	1,121.0	942.8
負債総額	1,492.9	1,517.3	1,545.9	1,661.2	1,514.3
資産-負債総額	(492.0)	(504.5)	(523.0)	(540.2)	(571.5)
P L					
財源 (税金収入等) 合計 (収入に相当)	161.0	157.7	144.8	191.4	171.2
連結業務費用総額 (支出に相当)	167.0	168.4	169.7	207.9	199.0
財源-業務費用	(6.0)	(10.7)	(24.9)	(16.5)	(27.8)

初めて見る方も多いかもしれませんが、いかがでしょうか？これで何故維持できているのか？それは日銀が国債を買い支えており、金利を低めに抑えていられるからでしょう。偶然かもしれないが、ちょうど債務超過分程度日銀は日本国債を保有しております。このまま日銀が国債保有を増やし続けたら、維持できなくなってしまうのではと懸念する次第です。

今が引き返せる最後のチャンスかなと感じずにはられません。

以上

2024 年 10 月 9 日 M. S